

第17回宇宙科学・探査部会 議事要旨

1. 日時：平成26年10月17日（金） 12：00－14：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

（1）委員

松井部会長、薬師寺部会長代理、家森委員、小野田委員、片岡委員、久保委員、櫻井委員、下村委員、田近委員、山川委員、山崎委員

（2）事務局

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、深井宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

（1）新宇宙基本計画に盛り込むべき事項について

[国際宇宙ステーション（ISS）計画及び有人宇宙探査]

資料3～5に基づいてそれぞれ文部科学省、外務省、経済産業省、国土交通省及び防衛省より説明等があった。委員から以下のような意見があった。

○ISSや有人宇宙探査の明確な目標やコンセプトが十分ではないのではないか。

○人類の活動領域の拡大は有人探査でなければ達成できないというわけではなく、無人探査でも可能ではないか。

○仮に日本で有人宇宙活動を発展させるためには、民間による投資が必要ではないか。

○日米協力の領域は幅広く、安全保障面は特に大きい。そのような状況の中で、あえてISSを強調する必要はないのではないか。ISSの延長や有人宇宙探査をやらなくても日米同盟に影響はないのではないか。

○米国との付き合いの難しさは議会の動向であるとか、大統領の交代による政策の変化があり、それは頻繁に起こるため、日本の意思決定はもっと慎重であるべき。日米協力は多面的であり、今すぐにISS延長や国際宇宙探査にコミットすべきではないのではないか。

○科学的な側面から見て、ISSでの活動は、無人でもできるのであり、有人でなければできないという根拠にはならないのではないか。

○有人による宇宙探査は、無人とは異なり、宇宙飛行士等の顔が見えることに意義があるのではないか。

[宇宙科学・探査（深宇宙探査）]

深宇宙探査についてJAXAの常田理事より科学コミュニティの議論の状況について報告があった。委員から以下のような意見があった。

○重力天体として火星への無人着陸技術をゴールとする計画とするべきではないか。

○深宇宙探査に向けてプログラム化の考え方が必要であり、人材の確保の面でも目標は必要。

○米国の探査の方針に対して、日本がどう関わり貢献していくか、有人・無人も含めて整理すべき。

[人材育成]

○深宇宙探査には長い期間を要し、人材育成の議論は避けられないのでしっかり議論すべき。

以 上